



令和5年度製品・サービスのカーボンフットプリントに係るモデル事業 合同講義資料

第2章 表示編





令和5年度製品・サービスの カーボンフットプリントに係る モデル事業 第2章 表示編

合同講義 第7回

令和5年 (2023年) 11月13日



本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 第2回経営層会議の内容
- 3 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 4 モデル事業 具体的な取り組み
- 5 本日の課題

本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 第2回経営層会議の内容
- 3 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 4 モデル事業 具体的な取り組み
- 5 本日の課題

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)	
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why) ② 対象製品の選定 (What1/2) ③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2) ④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	第1-2回 (8/21-9/4) 第2回 (9/4)
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	
		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	第4-6 (10/2-30)
	Step3 CFPの算定	④ 算定ツールの用意・データの入力	第5-8 (10/16-11/27)
		表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解 ② CFP算定報告書の作成
第2節 表示・開示	表示・開示の実施	① ターゲット・訴求ポイントの決定 ② 表示・開示の実行	第7- (11/13)
	第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	① CFP削減目標値・目標時期を設定する ② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する
削減対策の検討		①追加対策候補をリストアップする	第8- (10/30-)
	②追加対策候補の優先度を判定する		
	③ロードマップを策定する	第9- (12/11-)	

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)		
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why)	● 全社戦略等を踏まえ、CFPの目的を明確化	第1-2回 (8/21-9/4)
		② 対象製品の選定 (What1/2)	● 算定インパクトと想定工数から製品を決定	
		③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2)	● B2BとB2Cの差異等を考慮しステージを決定	第2回 (9/4)
		④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	● 指針とするISO規格等及び対応方針を決定	
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	● ライフサイクルにおけるプロセスの関係性を明示	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	● 影響度が小さく算定が困難なプロセスを確認	
Step3 CFPの算定		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	● 具体的な算定ルールを決め、明文化	第4-6 (10/2-30)
		④ 算定ツールの用意・データの入力	● 算定手順を表計算ソフト上で表現	第5-8 (10/16-11/27)
第2節 表示・開示	表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解	● CFPの表示・開示時に含めるべき情報等を確認	第7-8 (11/13-11/27)
		② CFP算定報告書の作成	● 20の記載項目への対応を確認し、報告書を作成	
	表示・開示の実施	① ターゲット・訴求ポイントの決定	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	第7- (11/13)
		② 表示・開示の実行	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	
第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	① CFP削減目標値・目標時期を設定する	● 中期・長期の目標時期を設定	第7-8 (11/13-11/27)
		② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する	● 対象製品に関わる対策をプロセス毎に棚卸し、GHG削減量・追加削減必要量を定量化	
	削減対策の検討	①追加対策候補をリストアップする	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	第8- (10/30-)
		②追加対策候補の優先度を判定する	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	
		③ロードマップを策定する	● 優先順位の高い対策の取組に対する検討のロードマップを策定	第9- (12/11-)

本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 第2回経営層会議の内容
- 3 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 4 モデル事業 具体的な取り組み
- 5 本日の課題

本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 第2回経営層会議の内容
- 3 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 4 モデル事業 具体的な取り組み
- 5 本日の課題

本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 第2回経営層会議の内容
- 3 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 4 モデル事業 具体的な取り組み
- 5 本日の課題

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

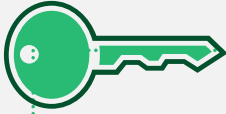
CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)		
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why) <ul style="list-style-type: none"> ● 全社戦略等を踏まえ、CFPの目的を明確化 	第1-2回 (8/21-9/4)	
		② 対象製品の選定 (What1/2)		● 算定インパクトと想定工数から製品を決定
		③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2)	● B2BとB2Cの差異等を考慮しステージを決定	第2回 (9/4)
		④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	● 指針とするISO規格等及び対応方針を決定	
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	● ライフサイクルにおけるプロセスの関係性を明示	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	● 影響度が小さく算定が困難なプロセスを確認	
Step3 CFPの算定		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	● 具体的な算定ルールを決め、明文化	第4-6 (10/2-30)
		④ 算定ツールの用意・データの入力	● 算定手順を表計算ソフト上で表現	第5-8 (10/16-11/27)
第2節 表示・開示	表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解	● CFPの表示・開示時に含めるべき情報等を確認	第7-8 (11/13-11/27)
		② CFP算定報告書の作成	● 20の記載項目への対応を確認し、報告書を作成	
	表示・開示の実施	① ターゲット・訴求ポイントの決定	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	第7- (11/13)
		② 表示・開示の実行	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	
第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	① CFP削減目標値・目標時期を設定する	● 中期・長期の目標時期を設定	第7-8 (11/13-11/27)
		② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する	● 対象製品に関わる対策をプロセス毎に棚卸し、GHG削減量・追加削減必要量を定量化	
	削減対策の検討	①追加対策候補をリストアップする	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	第8- (10/30-)
		②追加対策候補の優先度を判定する	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	
		③ロードマップを策定する	● 優先順位の高い対策の取組に対する検討のロードマップを策定	第9- (12/11-)

【プロセス⑥】表示・開示に向けた準備



- 算定結果の透明性を担保しつつ、表示・開示に関するルールを参照のうえ表示・開示を行う。

やるべきことの概要



- CFPの表示・開示に関するルールを確認
 - CFPを製品パッケージやカタログなどに表示・開示する場合は、補足情報として**CFP算定報告書**(CFPの算定結果や算定方法をまとめたもの)を分かりやすく示す
 - CFP数値の横に、CFP算定報告書へのリンクやQRコードを記載する方法でも可

例



- 定められている20の記載項目に従って、CFP算定報告書を作成
 - 読み手に「算定結果に対する信頼性」を伝えるために必要な情報を記載
例) 再エネ証書を使う場合には、「L 電力の取り扱い」を記載
 - ◆ イラストや写真の利用も効果的
 - 秘匿性・事業者のリソースの観点から定められた全ての情報を記載することが難しい場合、**必要に応じて報告項目を選択して提供可**
 - 結論に与える影響が重要でない事項については、その理由を説明したうえで詳細な検討・報告を省略可
- 規定された項目に加え、「将来の方向性」の記載が望ましい
 - CFP算定に対する企業の姿勢を伝えることが出来る

このプロセスを通じた作成資料のイメージ

CFP算定報告書への掲載項目: ISO14067:2018などの要求事項と、モデル事業の対象製品においてCFP算定報告書に掲載した項目 (CFPの表示・開示の際の補足情報として使用する場合)

ISO14067:2018などの要求事項 ¹	モデル事業においてCFP算定報告書に掲載した項目 ²	
項番	項目	
*	CFP算定結果	○
**	一般的な側面 (LCAの責任者及びLCAの実施者 (内部又は外部) / 報告の日付 / 調査が規格の要求事項に従って実施されたことを示す記述)	○
**	調査の目的 (調査をした理由 / その意図した用途 / 対象とする報告先 / 調査が、一般に開示することを意図する比較主張を支持しようとする調査であるかどうかの記述)	○
A	機能単位 (算定単位) と宣言単位	○
B	システムバウンダリー	○
C	重要な単位プロセスの一覧	-
D	データソース、データ収集に関する情報	○
E	対象としたGHGの一覧	○
F	選択された特性化係数	-
G	選択したカットオフ基準と、カットオフ対象としたもの	-
H	配分の方法 (1次データが配分計算したものであるかどうかを含む)	-
I	土地利用等の特定のGHG排出・除去 (吸収) のタイミング (該当する場合)	-
J	使用したデータに関する情報 (1次データ比率、データ選択基準、品質に関する評価を含む)	○
K	感度分析及び不確実性評価の結果	-
L	電力の取り扱い (系統電力の排出係数の計算や関連する制約を含む)	-
M	解釈の結果 (結論と限界を含む)	○
N	価値に基づく判断をした場合の開示と正当性の説明	-
O	スコープ (機能単位、システムバウンダリー 等) の正当性	-
P	ライフサイクルステージの説明 (使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオの説明を含む)	-
Q	算定に用いた使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオと異なるものを採用した場合に、最終的な結果に与える影響の評価	-
R	CFPの算定対象とした期間 (使用したデータの対象期間を含む)	○
S	参照した製品別算定ルール、又はその他の要件	○
T	パフォーマンス・トラッキングに関する説明 (該当する場合)	○
-	将来の方向性	○

1 項番にアルファベットが記載されているものはISO14067:2018 7.3での要求事項 (和訳は第2部より)。*と記載されているものは、ISO14067:2018 7.2での要求事項。**と記載されているものは、ISO14044:2006での要求事項。項番がないものは、実践ガイド独自。
2 モデル事業実施時に、対象製品の国内外でのCFP算定報告書の状況を踏まえて掲載

CFP算定報告書への掲載項目

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)		
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why)	● 全社戦略等を踏まえ、CFPの目的を明確化	第1-2回 (8/21-9/4)
		② 対象製品の選定 (What1/2)	● 算定インパクトと想定工数から製品を決定	
		③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2)	● B2BとB2Cの差異等を考慮しステージを決定	第2回 (9/4)
		④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	● 指針とするISO規格等及び対応方針を決定	
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	● ライフサイクルにおけるプロセスの関係性を明示	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	● 影響度が小さく算定が困難なプロセスを確認	
Step3 CFPの算定		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	● 具体的な算定ルールを決め、明文化	第4-6 (10/2-30)
	④ 算定ツールの用意・データの入力	● 算定手順を表計算ソフト上で表現	第5-8 (10/16-11/27)	
第2節 表示・開示	表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解	● CFPの表示・開示時に含めるべき情報等を確認	第7-8 (11/13-11/27)
		② CFP算定報告書の作成	● 20の記載項目への対応を確認し、報告書を作成	
第3節 削減対策の実施に向けて	表示・開示の実施	① ターゲット・訴求ポイントの決定	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	第7- (11/13)
		② 表示・開示の実行	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	
	削減目標の設定	① CFP削減目標値・目標時期を設定する	● 中期・長期の目標時期を設定	第7-8 (11/13-11/27)
		② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する	● 対象製品に関わる対策をプロセス毎に棚卸し、GHG削減量・追加削減必要量を定量化	
	削減対策の検討	①追加対策候補をリストアップする	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	第8- (10/30-)
		②追加対策候補の優先度を判定する	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	
③ロードマップを策定する		● 優先順位の高い対策の取組に対する検討のロードマップを策定	第9- (12/11-)	

算定結果は、削減目標とあわせて、商品ラベルを導線としたウェブサイトで消費者へ表示

⑤-A 表示アプローチ

準拠する規格/解釈

今般のモデル事業は、ISO規格に沿う形で実施

イ ([再掲]：算定の方向性)
取組内容を伝え切るため、情報量が確保できるウェブサイトを中心に媒体とする



(準拠する規格/解釈)

ISO14026&関連規程に準拠

- ・ "他社比較" ではなく、"自社製品の算定・表示" の場合の規定を踏まえる

表示アプローチ

左記の考え方に沿い、具体的な表示の在り方を設計

商品ラベル

商品ラベルには、算定結果の概要・削減計画の概要のみを示し、ウェブサイトへ誘導

- ・ CO2排出量：xxkg
- ・ 削減の目標年 / 目標%
- ・ ウェブサイトへのQRコード

ウェブサイト

ウェブサイトには、CFPの考え方、算定と削減計画の詳細等を細かくに記述

- ・ CFPとは何か
- ・ 算定アプローチ
- ・ CFPの内訳
- ・ 主な削減施策

表示

商品ラベルには、算定結果の概要・削減計画の概要のみを示し、ウェブサイトへ誘導 ⑤-B 表示の実施 (1/2)

商品ラベルデザイン (案)

原材料表示等とは別に、個別のシールを張り付ける想定



主な内容

商品ラベルには表示面積の限界があり、情報は最小限にとどめる

- CO2排出量 : xxkg
- 削減の目標年 / 目標%
- ウェブサイトへのQRコード

ウェブサイトには、CFPの考え方、算定と削減計画の詳細等を細かく記述 ⑤-B 表示の実施 (2/2)

ウェブサイトデザイン (案)

本年度モデル事業については、キャンペーン扱いの単体特設サイトで
取り組み内容を訴求



主な内容

ウェブサイトでは、環境への意識が高い消費者の閲覧を想定し、詳細な
情報を掲載

- ・ CFPとは何か
- ・ 算定アプローチ
- ・ CFPの内訳
- ・ 主な削減施策

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)		
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why)	● 全社戦略等を踏まえ、CFPの目的を明確化	第1-2回 (8/21-9/4)
		② 対象製品の選定 (What1/2)	● 算定インパクトと想定工数から製品を決定	
		③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2)	● B2BとB2Cの差異等を考慮しステージを決定	第2回 (9/4)
		④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	● 指針とするISO規格等及び対応方針を決定	
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	● ライフサイクルにおけるプロセスの関係性を明示	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	● 影響度が小さく算定が困難なプロセスを確認	
Step3 CFPの算定		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	● 具体的な算定ルールを決め、明文化	第4-6 (10/2-30)
	④ 算定ツールの用意・データの入力	● 算定手順を表計算ソフト上で表現	第5-8 (10/16-11/27)	
第2節 表示・開示	表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解	● CFPの表示・開示時に含めるべき情報等を確認	第7-8 (11/13-11/27)
	表示・開示の実施	② CFP算定報告書の作成	● 20の記載項目への対応を確認し、報告書を作成	
第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	① ターゲット・訴求ポイントの決定	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	第7- (11/13)
		② 表示・開示の実行	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	
	削減対策の検討	① CFP削減目標値・目標時期を設定する	● 中期・長期の目標時期を設定	第7-8 (11/13-11/27)
		② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する	● 対象製品に関わる対策をプロセス毎に棚卸し、GHG削減量・追加削減必要量を定量化	
		①追加対策候補をリストアップする	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	第8- (10/30-)
		②追加対策候補の優先度を判定する	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	
③ロードマップを策定する	● 優先順位の高い対策の取組に対する検討のロードマップを策定	第9- (12/11-)		

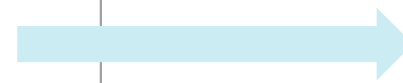
CFP を製品パッケージやカタログなどに表示・開示する場合、算定の透明性担保のために、補足情報として算定結果や算定方法などをまとめた算定報告書を示す必要がある

- CFP算定報告書は社内・社外と様々な読者を想定した 20 の記載項目が定められている（必ずしも公開する必要はない）
- CFPの数値を社外の消費者や顧客企業に表示・開示 する際に補足情報として CFP 算定報告書を用いる場合は、**情報の秘匿性等を考慮した上で、各社が必要に応じて報告項目を選択して提供できる**

CFP表示のイメージ

製品XXのカーボンフットプリント **12.5kg-CO₂e**
製品 1 個が原材料調達からお客様が廃棄するまでに
排出する温室効果ガスのCO₂相当量

詳細はこちら



CFP算定報告書



CFPLレポートへの推奨記載項目は、他社の事例を参考にグリーンウォッシュと判断されないようなものである必要がある

凡例 : ①-④すべてに記載があるもの : 手順書・ツールに記載あり
 : ①-④すべてに記載がないもの

カテゴリ	ISO14067:2018 ¹⁾	① SuMPO		② 化学業界ひな形	③ ミズノ社事例	④ アシックス社事例	環境省推奨項目	昨年度モデル事業参加企業のCFPLレポート	
		CFP宣言	PCR					東京吉岡	UA
1. 製品のライフサイクルと使用したシナリオ	a 機能単位 (算定単位) と宣言単位	△	○	○	○	○	○	○	○
	b システムバウンダリー	○	○	○	○	○	○	○	○
	e 対象としたGHGの一覧	×	○	×	○	×	○	○	×
	r CFPの算定対象とした期間 (使用したデータの対象期間を含む)	×	×	○	△(項目のみ)	×	○	○	×
	g 選択したカットオフ基準と、カットオフ対象としたもの	×	○	×	△(項目のみ)	×	○	○	○
	h 配分の方法 (1次データが配分計算したものであるかどうかを含む)	×	△	○	×	×	○	○	×
	i 土地利用等の特定のGHG排出・除去 (吸収) のタイミング (該当する場合)	×	×	×	△(項目のみ)	×	×	×	×
	c 重要な単位プロセスの一覧	×	×	×	×	×	×	×	×
	d データソース、データ収集に関する情報	△	○	○	○	○	○	○	○
	j 使用したデータに関する情報 (1次データ比率、データ選択基準、品質に関する評価を含む)	×	○	○	○	○	○	○	○
2. データ	s 参照した製品別算定ルール、又はその他の要件	○	○	×	×	×	○	○	×
	f 選択された特性化係数	×	×	×	×	×	×	×	×
	l 電力の取り扱い (系統電力の排出係数の計算や関連する制約を含む)	×	×	×	×	×	×	×	×
	n 価値に基づく判断をした場合の開示と正当性の説明	○	○	○	○	○	×	×	○
3. 算定結果	m 解釈の結果 (結論と限界を含む)	×	○	○	△(項目のみ)	×	○	○	○
	t パフォーマンス・トラッキングに関する説明 (該当する場合)	×	×	×	○	×	○	○	○
	k 感度分析及び不確実性評価の結果	△	△	○	△(項目のみ)	×	×	×	×
	o スコープ (機能単位、システムバウンダリー 等) の正当性	×	△	○	×	×	×	×	×
	p ライフサイクルステージの説明 (使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオの説明を含む)	×	△	○	×	×	×	×	×
	q 算定に用いた使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオと異なるものを採用した場合に、最終的な結果に与える影響の評価	×	△	×	×	×	×	×	×
4. 調査の限界と将来に向けた提言									

1. ISO14067 7.2GHG values in the CFP study reportより
 Source: ①SumPO (CFP宣言事例 / PCR事例)、②化学業界ひな形、③ミズノ社事例、④アシックス社事例、東京吉岡算定報告書、UA算定報告書

昨年のモデル事業参加企業の算定報告書を基に、掲載推奨項目を決定(1/2)

東京吉岡株式会社の算定報告書

ISO14067:2018などでの要求事項 ¹		モデル事業においてCFP算定報告書に掲載した項目 ²
項番	項目	
*	CFP算定結果	○
**	一般的な側面 (LCAの責任者及びLCAの実施者 (内部又は外部) / 報告の日付 / 調査が規格の要求事項に従って実施されたことを示す記述)	○
**	調査の目的 (調査をした理由 / その意図した用途 / 対象とする報告先 / 調査が、一般に開示することを意図する比較主張を支持しようとする調査であるかどうかの記述)	○
A	機能単位 (算定単位) と宣言単位	○
B	システムバウンダリー	○
C	重要な単位プロセスの一覧	—
D	データソース、データ収集に関する情報	○
E	対象としたGHGの一覧	○
F	選択された特性化係数	—
G	選択したカットオフ基準と、カットオフ対象としたもの	○
H	配分の方法 (1次データが配分計算したものであるかどうかを含む)	—
I	土地利用等の特定のGHG排出・除去 (吸収) のタイミング (該当する場合)	—

¹ 項番にアルファベットが記載されているものはISO14067:2018 7.3での要求事項(和訳は第2部より)。*と記載されているものは、ISO14067:2018 7.2での要求事項。* *と記載されているものは、ISO14044:2006での要求事項。項番がないものは、実践ガイド独自。

² モデル事業実施時に、対象製品の国内外でのCFP算定報告書の状況を踏まえて掲載

昨年のモデル事業参加企業の算定報告書を基に、掲載推奨項目を決定(2/2)

東京吉岡株式会社の算定報告書

ISO14067:2018などでの要求事項 ¹		モデル事業においてCFP算定報告書に掲載した項目 ²
項番	項目	
J	使用したデータに関する情報 ((1次データ比率、データ選択基準、品質に関する評価を含む)	○
K	感度分析及び不確実性評価の結果	—
L	電力の取り扱い (系統電力の排出係数の計算や関連する制約を含む)	—
M	解釈の結果 (結論と限界を含む)	○
N	価値に基づく判断をした場合の開示と正当性の説明	—
O	スコープ (機能単位、システムバウンダリー 等) の正当性	—
P	ライフサイクルステージの説明 (使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオの説明を含む)	—
Q	算定に用いた使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオと異なるものを採用した場合に、最終的な結果に与える影響の評価	—
R	CFPの算定対象とした期間(使用したデータの対象期間を含む)	○
S	参照した製品別算定ルール、又はその他の要件	○
T	パフォーマンス・トラッキングに関する説明 (該当する場合)	○
	—	将来の方向性

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)		
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why)	● 全社戦略等を踏まえ、CFPの目的を明確化	第1-2回 (8/21-9/4)
		② 対象製品の選定 (What1/2)	● 算定インパクトと想定工数から製品を決定	
		③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2)	● B2BとB2Cの差異等を考慮しステージを決定	第2回 (9/4)
		④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	● 指針とするISO規格等及び対応方針を決定	
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	● ライフサイクルにおけるプロセスの関係性を明示	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	● 影響度が小さく算定が困難なプロセスを確認	
Step3 CFPの算定		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	● 具体的な算定ルールを決め、明文化	第4-6 (10/2-30)
	④ 算定ツールの用意・データの入力	● 算定手順を表計算ソフト上で表現	第5-8 (10/16-11/27)	
第2節 表示・開示	表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解	● CFPの表示・開示時に含めるべき情報等を確認	第7-8 (11/13-11/27)
		② CFP算定報告書の作成	● 20の記載項目への対応を確認し、報告書を作成	
	表示・開示の実施	① ターゲット・訴求ポイントの決定	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	第7- (11/13)
第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	② 表示・開示の実行	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	第7-8 (11/13-11/27)
		① CFP削減目標値・目標時期を設定する	● 中期・長期の目標時期を設定	
	削減対策の検討	② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する	● 対象製品に関わる対策をプロセス毎に棚卸し、GHG削減量・追加削減必要量を定量化	第8- (10/30-)
		①追加対策候補をリストアップする	● 発信ツールをリストアップし、タイミング等を検討	
		②追加対策候補の優先度を判定する	● 製品へのCFP印字やHP公開等により表示・開示	第9- (12/11-)
③ロードマップを策定する	● 優先順位の高い対策の取組に対する検討のロードマップを策定			

・記載内容はイメージです。
 ・各社の状況に応じ、作成してください。

表示・開示の方法は大きく自社ツールの利用、製品表示、マスメディア利用の3種類ある

表示・開示に向けた準備

表示・開示方法のリストアップ (イメージ)

	ツール	訴求内容	タイミング		調整の必要
			発表	最終化	
自社 ツール	プレスリリース	<ul style="list-style-type: none"> 主力製品XのCFPを算定。算定結果XXは4月以降、商品パッケージにも表示 今後Xシリーズ全般に算定を拡大していく 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年6月 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年5月 	広報部、商品部
	ウェブサイト (商品ページ)	<ul style="list-style-type: none"> 算定をした旨 CFPの数値 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年6月 2024年12月 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年4月 2024年10月 	広報部、商品部
	ウェブサイト (コーポレートページ)	<ul style="list-style-type: none"> 算定をした旨 CFPの数値 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年6月 2024年12月 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年4月 2024年10月 	広報部、商品部
	統合報告書/ サステナビリティレポート	<ul style="list-style-type: none"> 算定をした旨 CFPの数値、削減対策の進捗 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年9月 2025年9月 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年6月 2025年6月 	経営企画部
製品への 表示	パッケージ表示 (実験店舗など)	<ul style="list-style-type: none"> CFPの数値 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年6月 	商品部、営業部
	店頭ポップ (実験店舗など)	<ul style="list-style-type: none"> CFPの数値 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年6月 	商品部、営業部
マスメディア	SNS/業界紙広告	<ul style="list-style-type: none"> 算定をした旨 CFPの数値 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年6月 2024年12月 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年5月 2024年11月 	広報部、商品部
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

CFP検討のステップ

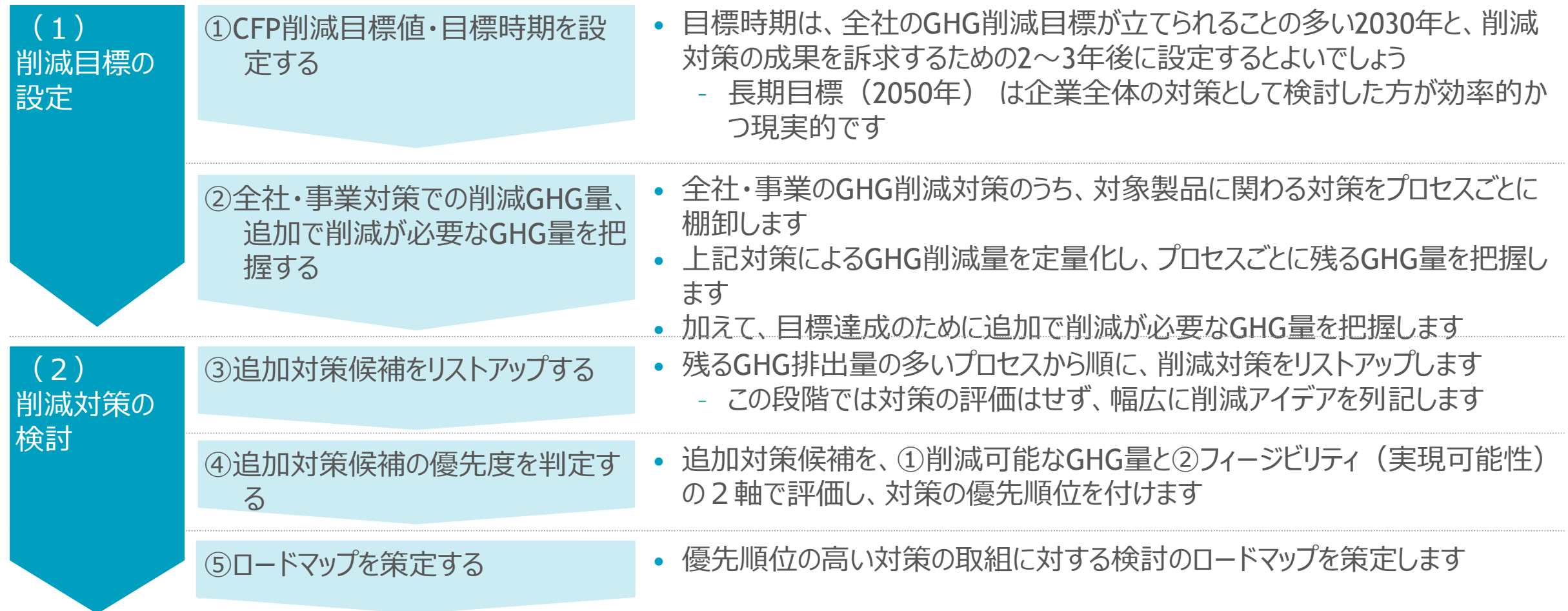
具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)	
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why) ② 対象製品の選定 (What1/2) ③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2) ④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	第1-2回 (8/21-9/4) 第2回 (9/4)
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	
		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	第4-6 (10/2-30)
	Step3 CFPの算定	④ 算定ツールの用意・データの入力	第5-8 (10/16-11/27)
第2節 表示・開示	表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解 ② CFP算定報告書の作成	第7-8 (11/13-11/27)
	表示・開示の実施	① ターゲット・訴求ポイントの決定 ② 表示・開示の実行	第7- (11/13)
第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	① CFP削減目標値・目標時期を設定する	第7-8 (11/13-11/27)
		② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する	
	削減対策の検討	①追加対策候補をリストアップする	第8- (10/30-)
②追加対策候補の優先度を判定する			
③ロードマップを策定する		第9- (12/11-)	

CFP削減対策は削減目標の設定と削減対策の検討の2ステップで行う

CFP削減対策の検討ステップ



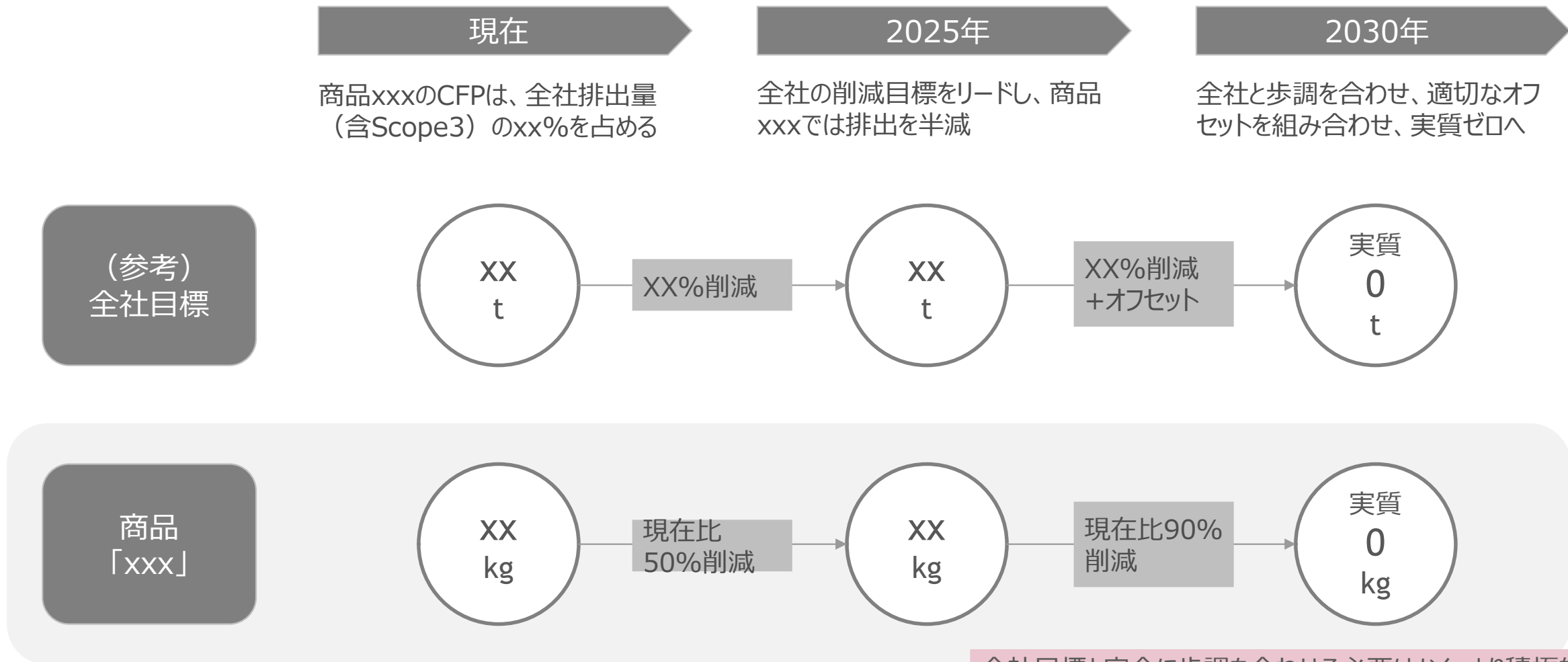
① CFP削減目標値・目標時期を設定する

CFP削減対策の検討ステップ

CFP削減対策の検討ステップ

<p>(1) 削減目標の 設定</p>	<p>①CFP削減目標値・目標時期を設定する</p>	<ul style="list-style-type: none">● 目標時期は、全社のGHG削減目標が立てられることの多い2030年と、削減対策の成果を訴求するための2～3年後に設定するとよいでしょう<ul style="list-style-type: none">- 長期目標（2050年）は企業全体の対策として検討した方が効率的かつ現実的です
	<p>②全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する</p>	<ul style="list-style-type: none">● 全社・事業のGHG削減対策のうち、対象製品に関わる対策をプロセスごとに棚卸します● 上記対策によるGHG削減量を定量化し、プロセスごとに残るGHG量を把握します● 加えて、目標達成のために追加で削減が必要なGHG量を把握します
<p>(2) 削減対策の 検討</p>	<p>③追加対策候補をリストアップする</p>	<ul style="list-style-type: none">● 残るGHG排出量の多いプロセスから順に、削減対策をリストアップします<ul style="list-style-type: none">- この段階では対策の評価はせず、幅広く削減アイデアを列記します
	<p>④追加対策候補の優先度を判定する</p>	<ul style="list-style-type: none">● 追加対策候補を、①削減可能なGHG量と②フィージビリティ（実現可能性）の2軸で評価し、対策の優先順位を付けます
	<p>⑤ロードマップを策定する</p>	<ul style="list-style-type: none">● 優先順位の高い対策の取組に対する検討のロードマップを策定します

対象商品のCO2排出量を、20xx年時点で半減させ、20xx年時点で90%削減とすることを旨とする削減目標の設定

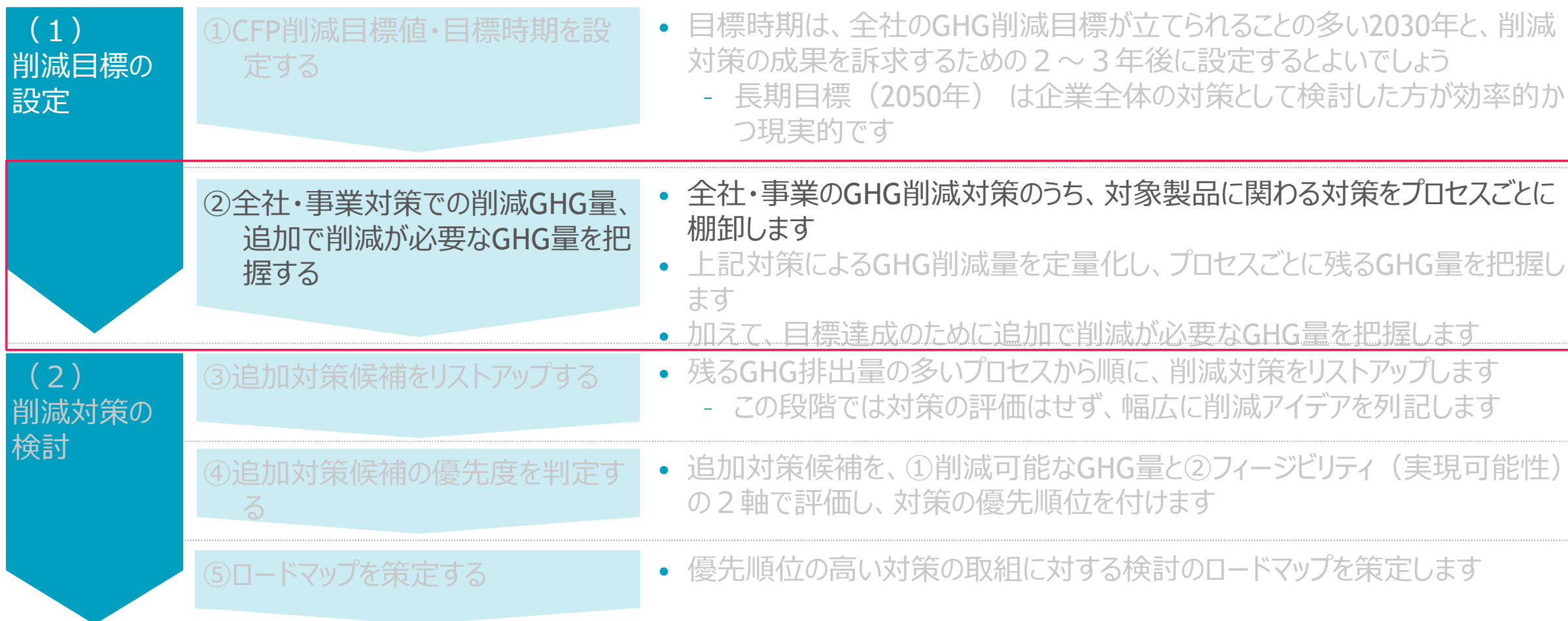


全社目標と完全に歩調を合わせる必要はなく、より積極的な削減目標を置くことも歓迎

② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する

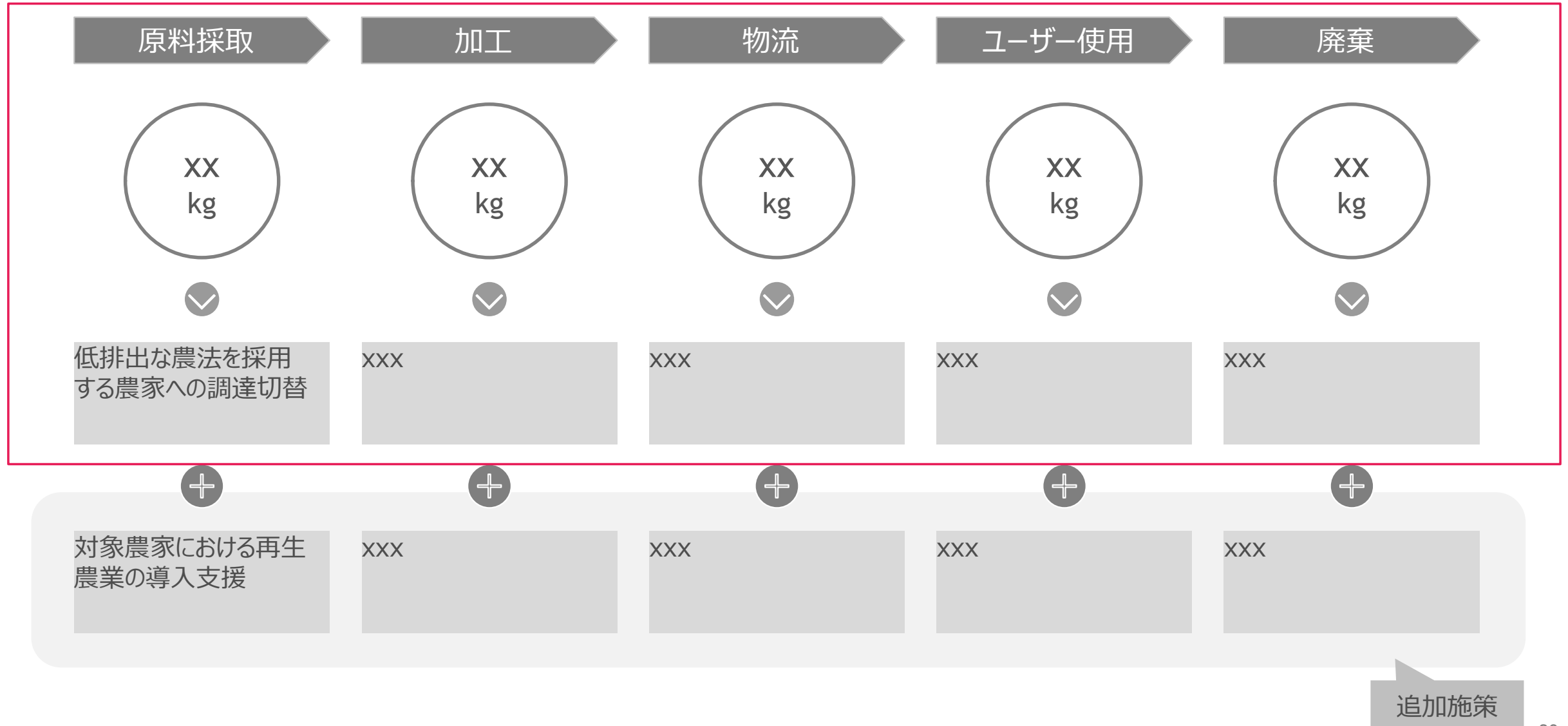
CFP削減対策の検討ステップ

CFP削減対策の検討ステップ



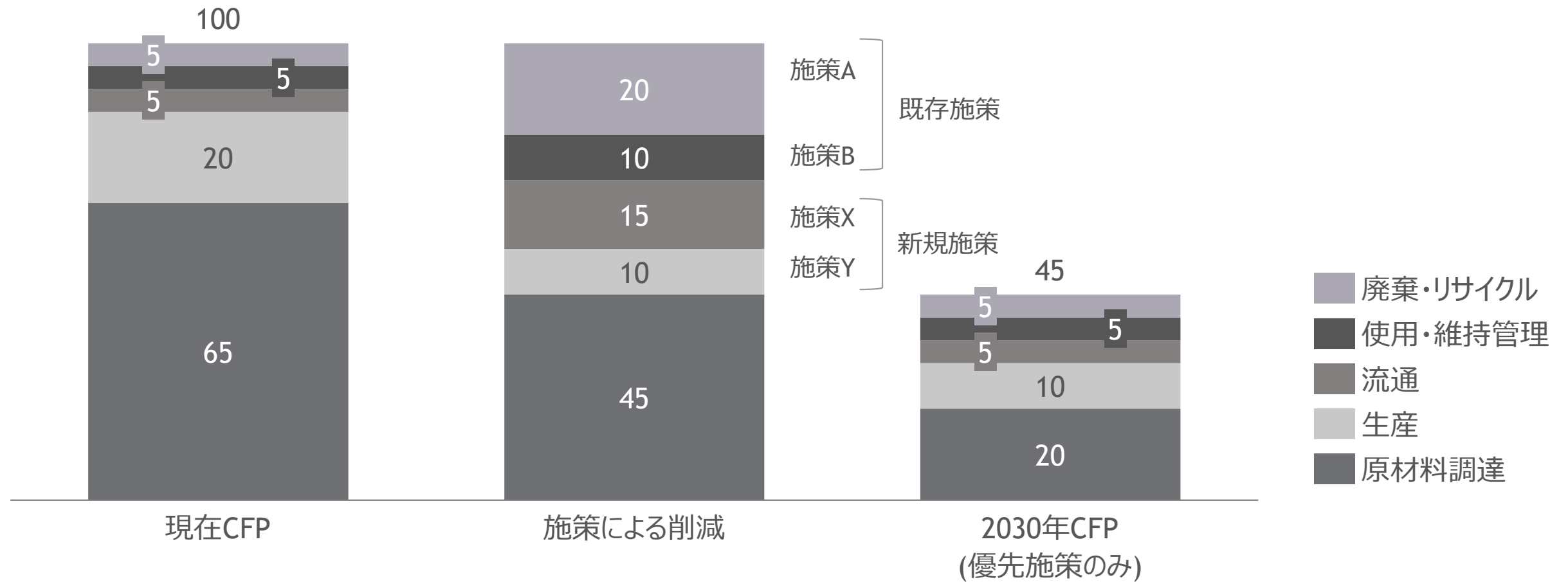
当該目標に向け、サプライチェーン上流・下流を含め、20xx年までに以下のような施策を実施
削減目標の設定

今回作成いただきたい内容



これらの施策により、CFPは概ね半減させられるとの見立て
削減目標の設定

CFP (kg・CO2e)



本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 第2回経営層会議の内容
- 3 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 4 モデル事業 具体的な取り組み
- 5 本日の課題

省略



令和5年度製品・サービスの カーボンフットプリントに係る モデル事業 第2章 表示編

合同講義 第8回

令和5年(2023年)11月27日



本日の内容

- ① スケジュールの確認
- ② 個別打ち合わせで出てきたポイント
- ③ モデル事業 具体的な取り組み
- ④ 本日の課題

本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 3 モデル事業 具体的な取り組み
- 4 本日の課題

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)	
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why) ② 対象製品の選定 (What1/2) ③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2) ④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	第1-2回 (8/21-9/4) 第2回 (9/4)
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	
		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	第4-6 (10/2-30)
	Step3 CFPの算定	④ 算定ツールの用意・データの入力	第5-8 (10/16-11/27)
		表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解 ② CFP算定報告書の作成
第2節 表示・開示	表示・開示の実施	① ターゲット・訴求ポイントの決定 ② 表示・開示の実行	第7- (11/13)
	第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	① CFP削減目標値・目標時期を設定する ② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する
削減対策の検討		①追加対策候補をリストアップする	第9- (12/11-)
	②追加対策候補の優先度を判定する		
	③ロードマップを策定する	第10- (1/15-)	

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)	
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why) ② 対象製品の選定 (What1/2) ③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2) ④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	第1-2回 (8/21-9/4) 第2回 (9/4)
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	
		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	第4-6 (10/2-30)
	Step3 CFPの算定	④ 算定ツールの用意・データの入力	第5-8 (10/16-11/27)
		表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解 ② CFP算定報告書の作成
第2節 表示・開示	表示・開示の実施	① ターゲット・訴求ポイントの決定 ② 表示・開示の実行	第7- (11/13)
	第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	① CFP削減目標値・目標時期を設定する ② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する
削減対策の検討		①追加対策候補をリストアップする	第9- (12/11-)
	②追加対策候補の優先度を判定する		
	③ロードマップを策定する	第10- (1/15-)	

本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 3 モデル事業 具体的な取り組み
- 4 本日の課題

省略

本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 3 モデル事業 具体的な取り組み
- 4 本日の課題

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)	
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why) ② 対象製品の選定 (What1/2) ③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2) ④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	第1-2回 (8/21-9/4) 第2回 (9/4)
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	
		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	第4-6 (10/2-30)
	Step3 CFPの算定	④ 算定ツールの用意・データの入力	第5-8 (10/16-11/27)
		表示・開示に向けた準備	① 表示・開示のルールの理解 ② CFP算定報告書の作成
第2節 表示・開示	表示・開示の実施	① ターゲット・訴求ポイントの決定 ② 表示・開示の実行	第7- (11/13)
	第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	① CFP削減目標値・目標時期を設定する ② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する
削減対策の検討		①追加対策候補をリストアップする	第9- (12/11-)
	②追加対策候補の優先度を判定する		
	③ロードマップを策定する	第10- (1/15-)	

CFP実践ガイドに基づくCFP算定の全体像

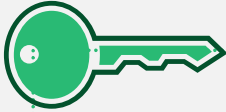
CFP検討のステップ

具体的な取組み方針

対応回 (日付)

CFP検討のステップ	具体的な取組み方針	対応回 (日付)	
第1節 算定	Step1 算定方針の検討	① 目的の明確化 (Why) ② 対象製品の選定 (What1/2) ③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What2/2) ④ 参照規格・基本方針の決定 (How)	第1-2回 (8/21-9/4) 第2回 (9/4)
	Step2 算定範囲の設定	① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成)	第3回 (9/17)
		② カットオフの基準の検討	
		③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成	第4-6 (10/2-30)
	Step3 CFPの算定	④ 算定ツールの用意・データの入力	第5-8 (10/16-11/27)
		① 表示・開示のルールを理解	第7-8 (11/13-11/27)
第2節 表示・開示	② CFP算定報告書の作成		
	表示・開示に向けた準備	① ターゲット・訴求ポイントの決定 ② 表示・開示の実行	第7- (11/13)
第3節 削減対策の実施に向けて	削減目標の設定	① CFP削減目標値・目標時期を設定する ② 全社・事業対策での削減GHG量、追加で削減が必要なGHG量を把握する	第7-8 (11/13-11/27)
	削減対策の検討	①追加対策候補をリストアップする	第9- (12/11-)
		②追加対策候補の優先度を判定する ③ロードマップを策定する	第10- (1/15-)

【プロセス⑥】表示・開示に向けた準備



- 算定結果の透明性を担保しつつ、表示・開示に関するルールを参照のうえ表示・開示を行う。

やるべきことの概要

このプロセスを通じた作成資料のイメージ

1

**表示・開示のルール
の理解**

- CFPの表示・開示に関するルールを確認
 - CFPを製品パッケージやカタログなどに表示・開示する場合は、補足情報として**CFP算定報告書**(CFPの算定結果や算定方法をまとめたもの)を分かりやすく示す
 - CFP数値の横に、CFP算定報告書へのリンクやQRコードを記載する方法でも可



2

CFP算定報告書の作成

- 定められている20の記載項目に従って、CFP算定報告書を作成
 - 読み手に「算定結果に対する信頼性」を伝えるために必要な情報を記載
例) 再エネ証書を使う場合には、「L 電力の取り扱い」を記載
 - ◆ イラストや写真の利用も効果的
 - 秘匿性・事業者のリソースの観点から定められた全ての情報を記載することが難しい場合、必要に応じて報告項目を選択して提供可
 - 結論に与える影響が重要でない事項については、その理由を説明したうえで詳細な検討・報告を省略可
- 規定された項目に加え、「将来の方向性」の記載が望ましい
 - CFP算定に対する企業の姿勢を伝えることが出来る

本日ご説明する内容

CFP算定報告書への掲載項目: ISO14067:2018などの要求事項と、モデル事業の対象製品においてCFP算定報告書に掲載した項目 (CFPの表示・開示の際の補足情報として使用する場合)

ISO14067:2018などの要求事項 ¹	項目	モデル事業においてCFP算定報告書に掲載した項目 ²
*	CFP算定結果	○
**	一般的な側面 (LCAの責任者及びLCAの実施者 (内部又は外部) / 報告の日付 / 調査が規格の要求事項に従って実施されたことを示す記述)	○
**	調査の目的 (調査をした理由 / その意図した用途 / 対象とする報告先 / 調査が、一般に開示することを意図する比較主張を支持しようとする調査であるかどうかの記述)	○
A	機能単位 (算定単位) と宣言単位	○
B	システムバウンダリー	○
C	重要な単位プロセスの一覧	-
D	データソース、データ収集に関する情報	○
E	対象としたGHGの一覧	○
F	選択された特性化係数	-
G	選択したカットオフ基準と、カットオフ対象としたもの	○
H	配分の方法 (1次データが配分計算したものであるかどうかを含む)	-
I	土地利用等の特定のGHG排出・除去 (吸収) のタイミング (該当する場合)	-
J	使用したデータに関する情報 (1次データ比率、データ選択基準、品質に関する評価を含む)	○
K	感度分析及び不確実性評価の結果	-
L	電力の取り扱い (系統電力の排出係数の計算や関連する制約を含む)	-
M	解釈の結果 (結論と限界を含む)	○
N	価値に基づく判断をした場合の開示と正当性の説明	-
O	スコープ (機能単位、システムバウンダリー 等) の正当性	-
P	ライフサイクルステージの説明 (使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオの説明を含む)	-
Q	算定に用いた使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオと異なるものを採用した場合に、最終的な結果に与える影響の評価	-
R	CFPの算定対象とした期間 (使用したデータの対象期間を含む)	○
S	参照した製品別算定ルール、又はその他の要件	○
T	パフォーマンス・トラッキングに関する説明 (該当する場合)	○
-	将来の方向性	-

1 項目にアルファベットが記載されているものはISO14067:2018 7.3での要求事項 (和訳は第2部より)。*と記載されているものは、ISO14067:2018 7.2での要求事項。**と記載されているものは、ISO14044:2006での要求事項。項目がないものは、実践ガイド独自。
2 モデル事業実施時に、対象製品の国内外でのCFP算定報告書の状況を踏まえて掲載

CFP算定報告書への掲載項目

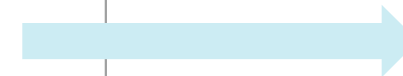
CFP を製品パッケージやカタログなどに表示・開示する場合、算定の透明性担保のために、補足情報として算定結果や算定方法などをまとめた算定報告書を示す必要がある

- CFP算定報告書は社内・社外と様々な読者を想定した 20 の記載項目が定められている（必ずしも公開する必要はない）
- CFPの数値を社外の消費者や顧客企業に表示・開示 する際に補足情報として CFP 算定報告書を用いる場合は、**情報の秘匿性等を考慮した上で、各社が必要に応じて報告項目を選択して提供できる**

CFP表示のイメージ

製品XXのカーボンフットプリント **12.5kg-CO₂e**
製品 1 個が原材料調達からお客様が廃棄するまでに
排出する温室効果ガスのCO₂相当量

詳細はこちら



CFP算定報告書



昨年のモデル事業でもISO14067:2018などの要求事項に基づいてCFP算定報告書に掲載をした

CFP算定報告書への掲載項目: ISO14067:2018などでの要求事項と、モデル事業の対象製品においてCFP算定報告書に掲載した項目 (CFPの表示・開示の際の補足情報として使用する場合)

ISO14067での要求事項 ¹	モデル事業での掲載項目 ²	東京吉岡の例	カテゴリ
項番 項目		項目	
* CFP算定結果	○		
** 一般的な側面 (LCAの責任者及びLCAの実施者 (内部又は外部) / 報告の日付 / 調査が規格の要求事項に従って実施されたことを示す記述)	○	一般的な側面 ³	なし
** 調査の目的 (調査をした理由 / その意図した用途 / 対象とする報告先 / 調査が、一般に開示することを意図する比較主張を支持しようとする調査であるかどうかの記述)	○	算定の目的 ⁴	1. CFP算定の目的
A 機能単位 (算定単位) と宣言単位	○	参照ルール	
B システムバウンダリー	○		
C 重要な単位プロセスの一覧	-		
D データソース、データ収集に関する情報	○	製品種別、算定単位	2. 製品のライフサイクルと使用したシナリオ
E 対象としたGHGの一覧	○	システム境界とライフサイクルフロー	
F 選択された特性化係数	-		
G 選択したカットオフ基準と、カットオフ対象としたもの	○	対象としたGHGの一覧 ⁵	
H 配分の方法 (1次データが配分計算したものであるかどうかを含む)	-	カットオフ基準	
I 土地利用等の特定のGHG排出・除去 (吸収) のタイミング (該当する場合)	-	算定対象期間 ⁶	
J 使用したデータに関する情報 (1次データ比率、データ選択基準、品質に関する評価を含む)	○	データ収集範囲に含まれるプロセス/データ収集項目	3. データ情報
K 感度分析及び不確実性評価の結果	-		
L 電力の取り扱い (系統電力の排出係数の計算や関連する制約を含む)	-		
M 解釈の結果 (結論と限界を含む)	○	算定結果	4. 算定結果
N 価値に基づく判断をした場合の開示と正当性の説明	-		
O スcope (機能単位、システムバウンダリー等) の正当性	-		
P ライフサイクルステージの説明 (使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオの説明を含む)	-	算定における課題点・不確実性	5. 調査の限界と将来に向けた提言
Q 算定に用いた使用段階や廃棄・リサイクル段階のシナリオと異なるものを採用した場合に、最終的な結果に与える影響の評価	-	(該当せず)	
R CFPの算定対象とした期間 (使用したデータの対象期間を含む)	○	今後のモニタリング・再算定の考え	
S 参照した製品別算定ルール、又はその他の要件	○		
T パフォーマンス・トラッキングに関する説明 (該当する場合)	○		
-			
	将来の方向性		

Boston Consulting Group. All rights reserved.

本日の内容

- 1 スケジュールの確認
- 2 個別打ち合わせで出てきたポイント
- 3 モデル事業 具体的な取り組み
- 4 本日の課題

省略

Disclaimer

The services and materials provided by Boston Consulting Group (BCG) are subject to BCG's Standard Terms (a copy of which is available upon request) or such other agreement as may have been previously executed by BCG. BCG does not provide legal, accounting, or tax advice. The Client is responsible for obtaining independent advice concerning these matters. This advice may affect the guidance given by BCG. Further, BCG has made no undertaking to update these materials after the date hereof, notwithstanding that such information may become outdated or inaccurate.

The materials contained in this presentation are designed for the sole use by the board of directors or senior management of the Client and solely for the limited purposes described in the presentation. The materials shall not be copied or given to any person or entity other than the Client ("Third Party") without the prior written consent of BCG. These materials serve only as the focus for discussion; they are incomplete without the accompanying oral commentary and may not be relied on as a stand-alone document. Further, Third Parties may not, and it is unreasonable for any Third Party to, rely on these materials for any purpose whatsoever. To the fullest extent permitted by law (and except to the extent otherwise agreed in a signed writing by BCG), BCG shall have no liability whatsoever to any Third Party, and any Third Party hereby waives any rights and claims it may have at any time against BCG with regard to the services, this presentation, or other materials, including the accuracy or completeness thereof. Receipt and review of this document shall be deemed agreement with and consideration for the foregoing.

BCG does not provide fairness opinions or valuations of market transactions, and these materials should not be relied on or construed as such. Further, the financial evaluations, projected market and financial information, and conclusions contained in these materials are based upon standard valuation methodologies, are not definitive forecasts, and are not guaranteed by BCG. BCG has used public and/or confidential data and assumptions provided to BCG by the Client. BCG has not independently verified the data and assumptions used in these analyses. Changes in the underlying data or operating assumptions will clearly impact the analyses and conclusions.



[bcg.com](https://www.bcg.com)